

平成28年度「土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール」作文小学生の部 優秀賞
(群馬県治水砂防協会会長賞)

「夏まつりで学んだ土砂災害」

嬭恋村立西部小学校 2年 村松 慶多

ぼくは、村の夏まつりに行きました。

色々見回っていくと、白いテントの中に、何かのもけいがおいてあって、ぼくは、それが気になって行ってみました。そこにおじさんがいて、

「やってみるかい？」

と、聞かれました。

そのもけいは、山がいくつかあって、山の下には、家がたくさんある町があり、そして山の上には、大きなビー玉がほこに山ほど入っていました。おじさんは、

「このビー玉は土砂なんだよ。」

と教えてくれました。

ぼくは、その山ほどのビー玉を、山のちょうじょうにおいていくと、おじさんは、ちょうじょうについていたガラスをとりました。

するとビー玉は、いきおいよく町にむかってころがりおちていき、町にあった家やビルが、たおれたり、のみこまれたりしていました。

そのじっけんのあと、砂ぼうえんていを山と町のまん中くらいのところにとりつけて、一回目のようにビー玉をおとしてみました。すると、ビー玉は、砂ぼうえんていで止まりました。すこしのビー玉はもれてしまいましたが、ビー玉は町をちょくげきしませんでした。

ぼくは、そのもけいを見て、

「砂ぼうダムや砂ぼうえんていって、すごく大じなんだな。」

と思いました。

すると、おじさんが、

「土砂災害は、とってもこわいんだよ。さぼうえんていがないと、さいしょにやったときみたいに、家やビルなどが、のみこまれたり、たおれたりしちゃうんだよ。でも、砂ぼうえんていがあると、土砂災害から町や村をまもってくれるんだよ。」

と、砂ぼうダムや砂ぼうえんていについてせつめいしてくれました。

ぼくたちの村は、たくさんの山にかこまれています。

いつ土砂災害がおこるかわかりません。

砂ぼうダムや砂ぼうえんていが、ぼくらをまもってくれていますが、自分たちもけいほうがでたら、すぐ公みんかんなどにひなんしたり、いつおこるか分からないことにも、気をつけていきたいと思います。